

「第2回 Brainサイエンスカフェ」参加レポート

Brainサイエンスカフェとは、参加者と研究者が気軽におしゃべりしながら脳の不思議について共に考えるイベントです。定員は30名とこぢんまりしていますが、その分、研究者との距離はぐっと近くなります。文字どおり、膝を突き合わせての会話が楽しめます。

第1回目（2015年11月）のカフェでは、「脳の中には地図がある？」と題して、海馬における記憶のメカニズムと空間を把握しナビゲーションする脳内の仕組みがテーマでした。2回目となる今回のお題は、「言葉の学び方と年齢」。話題提供者は脳科学総合研究センター 言語発達研究チームの馬塚れい子チームリーダー（TL）と秋元頼孝 研究員。言語発達研究チームでは、「赤ちゃん研究員」に行動実験に参加してもらいながら、乳幼児が大人の話している言葉にどのように興味を持ち、言語を獲得していくかを研究しています。

グローバル化が進む中、外国語、とりわけ英語の習得は日本人にとって大きな課題となっています。「赤ちゃんのうちに外国語に触れさせた方が身に付きやすい」とよく言われますが、科学的な根拠はあるのでしょうか。効果的に言葉を学ぶにはどうすればよいのでしょうか。そんな身近で切実なテーマだけに、カフェは学生さんから年輩の方まで、幅広い年齢層の方でいっぱいでした。

コーヒーを片手にリラックスした雰囲気でお話は進みます。イベント中ごろからは次々と参加者から質問や意見が出て、馬塚TLがアツク応えているうちに、時間はあっという間に過ぎてしま

いました。気になる外国語習得に適した時期とは？ 母国語運用能力を維持しつつ外国語を習得するという場合は、学ぶ時期が早い方が有利なわけではなく、「学ぶ意欲を持って努力することができる年齢」が効果的なのだそうです。「使える英語」に必要なのは語彙、文法、表現力。発音はきれいでも子ども同士で話すような表現しか使えないレベルでの「Nativeの英語」と、「実際に仕事で使える英語」とはイコールではないということですね。

次回「Brainサイエンスカフェ」の予定

2016年4月23日（土）理研和光地区一般公開において開催

場所：脳科学中央研究棟1F 伊藤正男ラウンジ

各回40分、定員30名程度

参加費無料（飲み物、スナックは会場横のコーヒーショップで購入して持ち込めます）

① 10：00 「脳の中の情報、私とあなた」（日本語・英語）

② 11：40 「感情とところを科学する」（日本語・英語）

③ 13：00 「ハエでヒトの脳がわかる？」（日本語・英語）

④ 14：30 「ヒトはどうやってヒトの顔を区別する？」（日本語のみ）

※プログラムは変更になる場合があります。また、当日はBrainサイエンスカフェのほかにも「脳科学 本気講座」と題した50分のセミナーも3本開催されます。最新情報は、理研Webサイト（<http://openday.riken.jp/>（3月20日ごろopen予定））をご参照ください。



理研脳科学総合研究センター（BSI）創立20周年記念イベント

第2回 Brainサイエンスカフェ「言葉を学ぶのに良い年齢ってあるの？ ～言葉の学び方と年齢～」

2016年2月3日18：00～19：30 和光市内のカフェにて開催